

● 資料収集、診断、指導仮説

非社会的行動の改善にあたっては、より効果的な指導援助をするために、多角的な資料収集をし、それに基づいて診断を行い、指導仮説を立てて計画的に指導援助を行う必要がある。

基本的対応	具 体 的 対 応	対 応 例
<b>資 料 収 集</b>		
(1) 資 料 を 収 集 す る 計	① ある程度、問題行動の背景を予測して資料収集の計画を立てる。	○ 背景の予測の例 ・ 不登校……対人関係を上手に形成できない性格ではないか？ 親の養育態度に問題はないか？ 友人との間にトラブルはなかったか？ ○ いつ、どこで、誰が、どんな内容の資料をどの程度収集するかの計画を立て、表などにまとめる。
(2) 既 存 の 資 料 か ら の 資 料 収 集 を す る	① 学校にある資料から、問題行動につながる資料を収集する。 ア 指導要録の前学年までの記録を見る。 イ 学習成績記録票を見る。 ウ 現在までの出席簿を見る。 エ 学級経営誌を見る。 オ 現在までの健康記録表を見る。 カ 家庭環境調査票を見る。 キ 生徒指導票を見る。 ク グループ日誌、生活記録表などを見る。 ケ 絵画や作文などを見る。	○ 知能と学力の関係を見る。成績の変動を見る。性格、行動の特徴をとらえる。 ○ 成績の急激な変動がないか調べる。 ○ 特定の曜日の欠席の有無を見る。遅刻や早退、月曜日や連休明けの欠席の有無を見る。 ○ 現在まで実施した各種の調査や検査を見る。家庭訪問記録を見るなど。 ○ 身体的な特徴や健康状態をとらえる。 ○ 家族構成、家庭の経済状態、家庭の物的環境、親の養育態度、生育歴などをとらえる。 ○ 現在までの行動の特徴、変容の様子を見る。 ○ 興味、関心、悩み、交友関係や家族関係などをとらえる。 ○ 絵画から子供の情緒面、知能の発達状況などをとらえる。 作文から子供の悩みや不満、価値感などをとらえる。テーマを与えた作品（例えば“私の家族”など）から、親子関係や交友関係などをとらえる。
(3) 観 察 に よ り 資 料 の 収 集 を す る	① 視点を明確にして観察する。 ア ことばづかい、話の内容をとらえる。 イ 表情を観る。 ウ 声の調子をとらえる。 エ 動作、行動を観る。 ② 場面をきめて観察する。 ③ 観察したことの意味を考え、さらに観察をする。	○ ことばづかい……口数が少ない、ていねい、なげやりなど ○ 話の内容……話の一貫性、陰語の使用など ○ 表情……暗い、硬い など ○ 声の調子……弱い、ふるえる、小声、恥ずかしそうなど ○ 動作、行動……緩慢、萎縮、ぎこちなさ など ○ 場面に応じ、それぞれの視点について、状態、程度、頻度などを観察し記録する。 ・ 朝会った時、授業中、休み時間、放課後などそれぞれの場面について観察する。 ○ 以前の様子や他の子供の様子との比較をする。 ○ 次のようにして観察を深める。 保健室に頻繁に出入りする子→（友だちと遊べないのではないか？対人関係に不安があるのではないか？などと考えて）→友だちと遊んでいる様子をさらに深く観察する。
(4) 他 家 資 源 の 族 長 な 職 を 収 集 す る	① 他の教職員から子供の情報を得る。 ア 機会をとらえて、他の教師からの情報を得る。 イ 学年会などで定期的子供について話し合う機会を持つ。	○ 「私のクラスの〇〇は、先生の授業ではどんな様子ですか？」 「私のクラスの〇〇は、今〇〇の状態なのですが、先生が担任されていたころはいかがだったでしょうか？」 ○ 「私のクラスの〇〇は、今〇〇なので心配なのですが、先生方でお気づきになられたことは何かありませんか。」